

写真家たちの

●奈良原一高の愛したヴェネツィア

◎会期:2017年2月16日[木]~5月15日[月]

◎会場:展示室4

協力:奈良原一高アーカイブズ

松江高校を卒業して7年後、初個展「人間の土地」(1956)を開催し写真界に衝撃を与えた奈良原一高(1931-)。1964年に初めてヴェネツィアを訪れて以来、この神秘的な水上都市に魅了されます。そして、回廊の灯りがカーテンの襞を浮彫にするサン・マルコ広場の128の回廊アーチすべてを撮影し、世界一長い写真集『光の回廊ーサン・マルコ』(1981)を完成させました。また、夜の間のなかで華麗な光を放つ海上都市を写真集『ヴェネツィアの夜』(1985)に、さらに、仮面の人々で溢れ街自体が劇場となるカーニバルを写真集『ヴェネツィアの光』(1987)に織めました。今回は、この三部作を中心に、約80点で奈良原の愛したヴェネツィアを紹介します。

トークイベント

◎講師/奈良原恵子
◎日時/4月2日(日)14:00~15:30
◎会場/美術館ホール(190席)
※当日先着順(聴講無料)

ギャラリートーク

(担当学芸員による作品解説)
◎日時/5月7日(日)14:00~14:30
※要コレクション展観覧料



《サン・マルコ寺院の夜 (ヴェネツィアの夜)より》1987年 作家蔵 ©Neko Narahara

写真家たちには、愛してやまない街があります。

企画展にあわせて、塩谷定好の愛した山陰とともに、「奈良原一高の愛したヴェネツィア」、「森山大道の愛したパリ」を展観します。

愛した街



《RUI》1989年 島根県立美術館蔵 ©Daigo Moriyama

●森山大道の愛したパリ

◎会期:2017年2月23日[木]~5月15日[月]

◎会場:展示室5

協力:森山大道写真財団/ツァイト・フォト/タカ・イシギャラリー

少年期、文学好きで画家に憧れていた森山大道(1938-)にとって、パリは芸術への憧憬そのものでした。青年期、森山はウジェーヌ・アジェのパリの写真と出会い、その静謐な作品に秘められた「在るものを存らしめよ」という、原質としての写真の姿に衝撃を受けます。そして50歳をむかえた森山は、パリに拠点をもち2年余りを過ごしています。ギャラリー開設の夢は、やがてパリの街を巡り歩き撮影する方向へとシフトしていきました。この展覧会では、森山の意識の底につねに秘められたパリの写真を、80年代から90年代のプリント約120点を集め展観します。

記念講演会

◎講師/森山大道
◎日時/4月9日(日)14:00~15:30(開場/約2時間)
◎会場/美術館ホール(190席)
※当日先着順(聴講無料)

ギャラリートーク

(担当学芸員による作品解説)
◎日時/5月7日(日)14:30~15:00
※要コレクション展観覧料

美術館キネマ

◎映画/『北ホテル』
◎日時/4月18日(日) ①10:30~ ②14:00~(字幕:各回30分前開場)
◎会場/美術館ホール ※当日先着順(鑑賞無料)

観覧料

当日券

ー 一般/企画展:1,000(800)円、企画・コレクション展セット:1,150(920)円

大学生/企画展: 600(450)円、企画・コレクション展セット: 700(530)円

小中高生/企画・コレクション展セット: 300(250)円

※()内は20名以上の団体料金 ※小・中・高生の学校教育活動での観覧は無料 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付添の方は観覧無料 ※前売券は、ローソン各店(ユコード61697)、チケットぴあ窓口(Pコード768-083)、JRの主な駅、主な旅行会社、各プレイガイドにてお求めになれます

【コレクション展観覧料】 ー 一般:300(240)円、大学生:200(160)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※企画展と同日に観覧の場合は半額になります



〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5
TEL:0852-55-4700 FAX:0852-55-4714
http://www.shimane-art-museum.jp
島根県立美術館

次回企画展予告

江戸の遊び絵づくし

2017年5月19日(金)~7月3日(月)

◎JR松江駅から徒歩約15分
◎JR松江駅から松江市営バス(南循環線内回り)6分
→県立美術館前下車
◎観光ループ(スライクライン)「県立美術館前」下車
◎山陰道→松江西ランプ車で約5分
国道9号線袖師交差点南進
(駐車場から地下道をご利用ください)
※3時間まで無料



愛しきものへ

塩谷定好

1899-1988

2017年
3月6日(日)~5月8日(日)

【開館時間】午前10時~日没後30分(展示室への入場は日没時刻まで)

【休館日】火曜日 ただし3月7日[火]、5月2日[火]は開館

主催/島根県立美術館、日本海テレビ、SPSしまね

協力/塩谷定好写真記念館

後援/朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、山陰中央新報社、新日本新聞社、島根日日新聞社、NHK松江放送局、TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン



《村の鳥籠》1925(大正14)年(部分) 島根県立美術館蔵

1. 村の鳥瞰－島根半島



1.《漁村》1925(大正14)年
2.《影》1924(大正13)年
3.《海岸小景》1925(大正14)年



2. 海近き風景－赤碕



4.《海辺小景》1925(大正14)年
5.《雪日》1925(大正14)年
6.《浴場小景》1925(大正14)年

※全て作者は塩谷定好。技法はセラチン・シルヴァー・プリントです。
※1,2,3,4,6,8,9,10,11,13,15,16,18,21,22,23は島根県立美術館蔵。
※12,14は島根県立美術館寄託。※5,7は横浜美術館蔵。※17,19,20は個人蔵

2017年 3月6日(日)～5月8日(日)

愛しきものへ 塩谷定好 1899-1988

「自然の心を私の心に重ねる」ように、山陰の風物を生涯写し続けた塩谷定好(1899-1988)。大正末から昭和初期に隆盛した絵画主義の写真「芸術写真」を代表する写真家です。

19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米で隆盛したビクトリアリスム(絵画主義)は、日本で独自の発展を遂げ、豊かな成果をもたらしました。塩谷は、洋画壇の前衛的な作風を取り入れた「日本光画協会」に属し、「ヴェス単」の愛称で知られる小型カメラを愛用し、独特の白の滲みに味わいのある軟調描写で、眼前の日本海や山里などの身近な自然とそこに暮らす人々を写し出しました。印画にメディウムを塗り、油絵具や蠟燭の油煙で仕上げる手法を用いた塩谷作品の深い味わいは、多くの写真家たちの胸を打ち、写真雑誌に次々と掲載されて全国に名を馳せたのです。写真に対するその真摯な態度は、いくつもの神話を生み、写真の道に進んだばかりの植田正治にとって、まさに神様のような存在でした。

しかし、昭和10年頃から「新興写真」の名のもとにカメラの精緻な描写力をストレートに用いたモダン・フォトグラフィが一世を風靡すると、芸術写真は否定され、戦後のリアリズムなどの新たな潮流のなかで埋もれていったのです。多様な写真表現が展開される現在、芸術写真を再評価する機運が高まるなか、写真家・塩谷定好は、稀有の存在として再び注目されています。80年もの間大切に保存され、日の目を見ることのなかった貴重なコレクション約400点(作品約300点、資料約100点)によって、戦前



《自画像》1934(昭和9)年

塩谷定好(しおたに ていこう) 1899(明治32)年～1988(昭和63)年

鳥取県赤碕町(現・琴浦町赤碕)の廻船問屋に生まれる。本名は定好(さだよし)。小学校の頃から写真に親しみ、1919(大正8)年、赤碕に「ベスト倶楽部」を創設する。1924(大正13)年以降『藝術写真研究』『カメラ』『アサヒカメラ』『フォトタイムス』などの写真雑誌の月例懸賞に入選を続けた。1925(大正14)年、島根半島多古島の沖泊を撮影した《漁村》で、『アサヒカメラ』創刊号の月例懸賞第1位に選ばれる。1928(昭和3)年、日本光画協会会員となる。1930年『藝術写真研究』誌上に《三人の小坊主》が発表され、その深遠な表現は多くの写真家たちに感銘を与える。1982年ドイツでフォトキナ栄誉賞を、1983年日本写真協会功労賞を受賞。『塩谷定好名作集 1923-1973』(1975)、『海鳴りの風景―塩谷定好写真集』(1984)が刊行された。大正末から昭和初期の芸術写真が隆盛した時期に、一世を風靡した単玉レンズつきカメラ「ヴェスト・ポケット・コダック」(通称ヴェス単)を愛用し、「ヴェス単フードははずし」と称された軟調描写で山陰の風物を生涯にわたって写した。日本の芸術写真を代表する写真家のひとりとして、高い評価を得ている。2014年、生家が塩谷定好写真記念館として開館した(琴浦町赤碕)。

記念講演会「塩谷定好と〈芸術写真〉の時代(仮称)」

- ◎講師／飯沢耕太郎(写真評論家)
- ◎日時／3月19日(日)14:00～(13:30開場／約2時間)
- ◎会場／美術館ホール(190席) ※当日先着順(聴講無料)

美術講座「愛しきものへ 塩谷定好・奇跡の10年(仮称)」

- ◎講師／篤谷典子(本展企画者・当館首席芸芸員)
- ◎日時／4月23日(日)14:00～(13:30開場／約2時間)
- ◎会場／美術館ホール(190席) ※当日先着順(聴講無料)

ギャラリートーク(担当芸芸員による作品解説)

- ◎日時／3月12日(日)、3月26日(日)、4月1日(土)、4月22日(土)、4月30日(日)、5月3日(水・祝)、各日14:00～

3. 小坊主座像



7.《三人の小坊主》1929(昭和4)年
8.《小坊主》1929(昭和4)年
9.《二人の小坊主》1930(昭和5)年



4. 家族の肖像



10.《少年》1929(昭和4)年
11.《肖像》1925(大正14)年
12.《児女と静物》1932(昭和7)年

5. 雪日



13.《松江風景》1929(昭和4)年
14.《雪日》1929(昭和4)年
15.《松江雪景》1925(大正14)年

6. 海を想う



16.《天気予報のある風景》1931(昭和6)年
17.《海辺村景》1934(昭和9)年
18.《海辺小景》1928(昭和3)年



19.《破船》1929(昭和4)年
20.《左義長の日》1932(昭和7)年

7. 挑戦



21.《朝顔》1932(昭和7)年
22.《鐘》1928(昭和3)年
23.《静物》1931(昭和6)年

「山の陰を想ふ」中村好伸with岩本象一
Guitar & Percussion コンサート
◎日時／4月29日(土・祝) ①13:00～ ②15:30～(各回30分)
◎会場／美術館1階ロビー(マイヨール ブロンズ横) ※鑑賞無料

ロビー
コンサート